

ほっかいどう

# かいはつグラフ

北海道開発局広報誌

Vol.32  
2003 季刊



北海道開発局グラフ

通巻第三十二号 二〇〇三年平成十五年三月

監修 北海道開発局広報室

発行 財団法人北海道開発協会

〒001-0002 札幌市北区北11条西2丁目 セントラル札幌ビル  
☎011-709-5221 FAX 011-709-5225

開発の日々の  
ひとコマ



旭川市民の誇りの重厚な「旭橋」

## 『氷点』の街のシンボル旭橋

旭橋は、旭川市内中心部を流れる石狩川に架かるアーチ橋です。初代旭橋は明治37年に誕生しました。その後昭和の初めころには老朽化が激しくなり、昭和7年に現在の橋に架け替えられました。

「激流と闘う戦艦」とも評されたこの橋は、戦中戦後のさまざまな歴史を秘めながら、その雄大なアーチを川面に映しています。この橋とともにかつて北海道の三大名橋といわれた、大正13年完成の二代目豊平橋、昭和3年完成の初代幣舞橋は既に架け替えが行われ、現存するのはこの二代目旭橋のみとなっています。現在70歳を越えた旭橋ですが、多くの車と人を通しながら、今も「旭川のシンボル」として元気に活躍しています。

## 釧路合同庁舎

北海道開発局営繕部では、裁判所や合同庁舎など、国の施設の整備を行っています。

平成12年に完成した釧路合同庁舎は、シビックコア地区として整備されています。建物は、雨水の再利用や太陽光発電の導入など、より地球にやさしい技術を取り入れているほか、この地区は地震が多いため免震工法を採用し、災害時には活動の拠点となることを想定しています。また、広場にはパブリックアートを設置して魅力ある空間づくりを行っており、釧路市のまちづくりへの貢献が期待されています。

シビックコア地区：官庁施設と民間施設が連携して、魅力とにぎわいのある都市の拠点づくりをする地区

特集●豊かな生活空間づくり

事業紹介／世界と北海道をつなぐ苫小牧港

つとと最前線／美しく楽しい公園づくり

開発事業のあゆみ／本府・札幌と港・小樽を結ぶ幹線道路

札幌国道

ピックアップ／高規格幹線道路3区間平成15年3月開通

ちやひんひんき…道の駅／道南エリアの道の駅

北国賦／滑ったり転んだりアドナイ流

チーズ工房アドナイ経営 堤田克彦さん

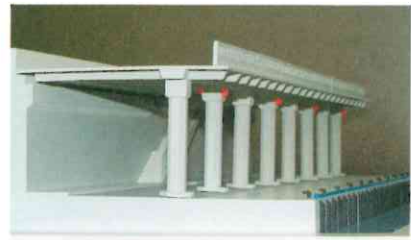


# 海と親しめるみなとづくり

## 宗谷港



宗谷港親水護岸完成イメージ図



2階建ての護岸の模型

宗谷マリンタウンプロジェクトイメージ図

北緯45度31分に位置する宗谷岬は、日本最北端の地であり、年間70万人の観光客が訪れる全国有数の観光スポットです。

宗谷港は、この宗谷岬に隣接しており、周辺海域で豊富に獲れるホタテ、タコ、カニ等の水揚げの場として重要な役割を担っています。

平成6年度に、北海道開発局と稚内市は、共同で「宗谷港マリンタウンプロジェクト」を策定しました。このプロジェクトは、海という資源を最大限にいかすため、水産業の振興を支援するとともに、親水護岸や公園、物産館などを相互に関連づけて整備し、観光客が自由に交流できる快適な空間をつくるものです。

北海道開発局では、現在、親水護岸の整備を行っています。この護岸は2階建てになっており、1階部分は宗谷港周辺の強風を防ぎ、女性・高齢者にもやさしい漁業作業場を提供します。2階部分は、宗谷岬を始め、サハリンや流水を眺望することが可能です。

このように、北海道開発局では、人々が海と親しめる空間づくりを進めており、これまでも稚内港のしおさいプロムナードや紋別港のクリオネプロムナードなどで親水施設を整備しています。

特集

# 豊かな生活空間づくり

北海道開発局では、河川や道路、港湾のほか農地の整備など様々な事業を展開しています。事業を進める際には、できるだけ自然に手をかけず、景観との調和や、人と自然が親しめる空間づくりに心がけています。

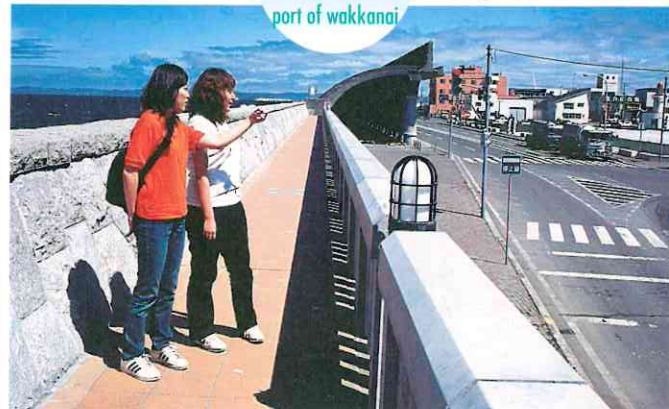
今回の特集では、暮らしの中でやさしげやうるおいの場として活かしてほしい事業のいくつかをご紹介します。

港湾  
.....3

河川  
.....4

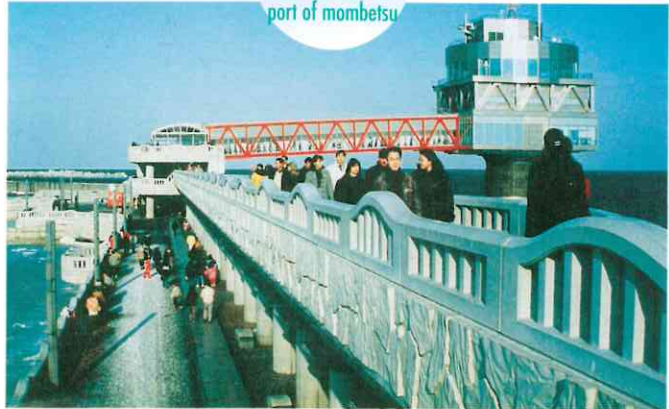
道路  
.....6

稚内港  
port of wakkanai



しおさいプロムナード

紋別港  
port of mombetsu



クリオネプロムナード





**川を眺められるテラス**  
車椅子が誤って落ちないように、車止めをつけています



**河川敷へはスロープと階段で降りられます**  
スロープは、勾配を緩くすることで誰もが利用しやすい形状としました。安全面から手すりも設置していますが、子供から大人までが利用可能なように段違いのものを取り入れています



階段は、既設のものを利用することになりましたが、現地体験会を通じ、目の悪い方でも段差を把握できるように、黄色と黒でコントラストをつけることになりました

## 十勝川インフォメーションセンター

十勝川インフォメーションセンターは、十勝川に隣接する川の資料館です。館内には実際に生息する魚たちの生態を見ることができる水槽や、十勝川に関するパネル展示、ビデオルームがあります。3階は、360度の景色が楽しめる展望コーナーとなっています。

館内には、多目的トイレや、車椅子の方や子どもの背の高さに合わせた水飲み場があるほか、エレベーターや階段昇降機を設置しました。



**階段昇降機**  
階段の移動に不安のある方でも3階まで昇って景色を楽しめます

**2階展示室**  
十勝の自然や文化について、クイズで楽しく学べるコーナーもあります



インフォメーションセンター外観  
入場は無料です。問い合わせ：(0155)23-2160

## すべての人にやさしい川づくり



十勝川では、平成11年度から「すべての人にやさしい川づくり」を推進しています。これは、子どもから高齢者まで、障害の有無や年齢にかかわらず、誰もが気軽に川に訪れ、遊んだりくつろいだりできるようにするものです。

河川の整備に当たっては、利用する方それぞれの視点から問題点や改善点等の貴重な意見をいただく場として、平成11年9月に「福祉の川づくり懇談会」を設立しました。懇談会では、各施設がより利用し易いものとなるように話し合い、さらにその内容を確認するための現地体験会も重ねながら整備を進めていきました。

具体的には、河川敷地に入るスロープや階段の整備のほか、川を眺められるテラスやサイン（公園案内板や誘導ブロック）を設けました。また、十勝大橋のふもとにある「十勝川インフォメーションセンター」の内部についてもすべての人に利用してもらえようよう機能改善を図りました。

「すべての人にやさしい川づくり」とは、完成後も改良・改善を加えて最も利用しやすい形に近づけていく、そんな川づくりです。今回でいったん整備は完了しましたが、本格的な利用はこれからとなるため、今後は、利用状況を把握し、利用者の声を聴いて改良を重ねていくことが必要となってきました。

この懇談会には、私を含め車椅子を利用するなど移動に制約がある人、視覚に障害がある人など、さまざまな立場の方が参加しました。それぞれから活発な意見が出されたので、とても有意義な話し合いだったと思います。懇談会からの「大型車が止められる駐車場が欲しい」などの要望がちんと反映されたことは嬉しく思います。

しかし、こうしてせっかく誰でも河川敷で遊んだりくつろいだりすることができるようになったのに、地域の方があまりこの存在を知らないのは、もったいないことだと思います。立派なものがあったのですから、どんどん周りの人に利用して欲しいですね。行政側も、つくったままにしておくのではなく、積極的に広報をすべきだと思います。

今後も行政が物をつくる際には、こうして利用者側の意見を積極的に聴いて欲しいと思います。例えば弱視の方は階段の段差が見づらいなど、体が不自由な人でなければわからないこともあります。これからは、利用者の声を取り入れた人にやさしい施設をつくっていくって欲しいですね。



「福祉の川づくり懇談会」座長  
吉澤 一廣さん  
NPO自立生活センターハズネ代表 理事長

懇談会に参加して...





地域住民による植樹の様子  
(左上・右)

張碓峠付近に木を植えて、森をつくることになりました



緑化計画委員会による  
現地調査



# 緑あふれる道路づくり

小樽開発建設部は、国道5号の渋滞緩和を図るための4車線拡幅を平成13年に終えましたが、沿道の緑化について地元住民や樹木の専門家から意見を聞き、緑あふれる美しい道路にしようと、「小樽拡幅道路緑化計画委員会」を発足させました。委員会では、現地の調査や地域でのアンケート調査も参考にしながら、植樹を行う場所や樹木を選定し、地域住民の協力を得て植樹会を開催しました。

その後、こうした植樹会などの活動がきっかけとなり、地域で「花や木を植えるがら地域の快適な環境と、住民相互のコミュニケーションを創出したい」という機運が高まり、「森づくり花づくりの会」が発足しました。現在も、地域住民による美しい道路づくりが進められています。

## 美しい「みち」を育む住民活動を支援します ボランティア・サポート・プログラム

いま、北海道内の各地で、ボランティア団体による歩道の清掃、花植え、植樹など沿道をきれいにしようという活動が広がっています。北海道開発局では、そのような活動を行っている地域住民のグループや商店街などを応援する「ボランティア・サポート・プログラム」を実施しています。

このプログラムは、国道の歩道に設置された植樹帯等の美化や歩道の清掃を行う団体に対して、自治体及び北海道開発局が協力して活動の支援を行うものです。

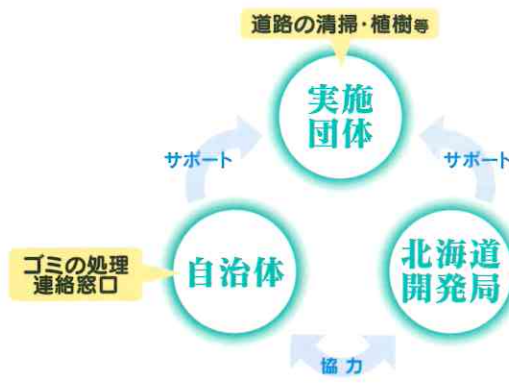
北海道開発局では作業用具の貸し出し・実施団体のサインボードの設置を行い、自治体ではゴミの処理等を支援します。このような活動は、道路がきれいになるだけでなく、道路利用のマナーの向上や、地域の活性化も期待されています。

平成14年度は、20団体がこのプログラムに参加して、地域の美しい「みち」を育む活動を行なっています。

詳しくは、北海道開発局のホームページでご覧になることができます。  
(申請書のダウンロードもできます)

<http://www.hkd.mlit.go.jp>

- トップページ
- 北海道開発事業の紹介
- 道路整備
- ボランティア・サポート・プログラム



花が植えられた美しい「みち」

## 緑化のイメージ

※合成写真による将来のイメージです



周辺の豊かな自然環境との調和を図り、自然に近い森林づくりをイメージしています



「カツラ並木の市道」がある桂岡地域のイメージに合わせてカツラの木を植え、統一感のある街並みを演出します



海の眺望性を大切にするとともに、小樽市の「市の木」であるシラカバを植え、「みどり」により印象深い演出をします





# 道の駅

## 道南エリアの道の駅

豊かな森林と多くの清流に恵まれた厚沢部町と蝦夷開拓時の風情息づく港町・江差の道の駅を紹介。道の駅ゆかりの宿や、近場には温泉もあって、名所旧跡も見逃せません。さあ、風光る春のドライブへ出発しましょう。



### あっさぶ

[国道227号 厚沢部町]

厚沢部町は、ヒノキアスナロ(ヒバ)や五葉松の北限、トドマツの南限ということもあって学術的にも貴重な地域です。そんな森林の町らしく、駅舎は地場のヒノキアスナロ材を使って建てられています。吹き抜けの天井までダイナミックに伸びる大黒柱を中心に、四方に組み込まれた美しい梁に注目。地元の大工さんの職技が光っています。室内には木のいい香りが満ちて、さながら森林浴をしているような気分を味わえますよ。



厚沢部町の花鳥風月をあしらったステンドグラスの窓も美しい物産コーナー



地場特産品が勢揃い。地元で「げんこつ」と呼ばれる米やとうもろこしを使った懐かしいお菓子も



正式名は「グリーンプラザ227」。駅舎内には観光協会も同居している

☎01396-4-3738 (観光協会)

### 江差

[国道227号 江差町]

笑いの守り神「繁次郎」に出会い、古寺や土蔵の町並みを散策



繁次郎グッズがおすすめ。「繁次郎劇団の舞台はおもしろいですよ」と、案内人

と伝えられる繁次郎は、愉快なとんちで周囲の人を笑わせる庶民のアイドルでもあった人。観光案内所も兼ねる繁次郎笑店では、繁次郎のとんちの本や繁次郎まんじゅうを販売しています。老舗お菓子屋の羊かん、鱈そばや鱈の甘露煮もお土産に最適。ちなみに、江差には平成8年に町民が旗揚げした「繁次郎劇団」があり、年1回の公演を行っています。繁次郎民話をネタに江差弁を使った笑いと涙の舞台だとか。必見です!

歴史や文化や自然の見どころもいっぱい。道の駅で観光情報を仕入れてから、町並みを散策してみても、「江差の五月は江戸にもない」と謳われたその繁栄が随所に残っています。史跡や古寺を巡った後は、温泉という手も。道の駅から徒歩で約5分。江差温泉「湯乃華」は自然石を組んだ露天風呂が人気です。温まった後は、海辺に建つ昔の鱈番屋を模した簡易宿泊所「繁次郎番屋」がおすすめ。寄せでは返す波の音を聞きながらのんびりと過ごせそうです。申し込みは道の駅で。



駐車場にある「江差の繁次郎」像が目印

国道227号の日本海沿い。大きな目でユーモラスな表情の「繁次郎」の銅像が見えたら、そこが道の駅「江差」です。江戸時代の江差に実在した



ヒノキ材を使った土蔵風のさわやかトイレと観光案内所

☎01395-2-1177

詳細は、北海道開発局のホームページからご覧いただけます。  
<http://www.hkd.mlit.go.jp>



国営滝野すずらん丘陵公園事務所

## 美しく楽しい公園づくり

札幌開発建設部 国営滝野すずらん丘陵公園事務所  
工務課工務係 **濱崎 良**



「こどもの谷」で私の一番のおすすめは「溶岩すべり台」。落差約8mで、北海道でも最大の規模です。

林浴を楽しめる空間として、できるだけ今の自然の森を壊さずに、森の中に散策路やベンチ、トイレなどを

「こどもの谷」で私の一番のおすすめは「溶岩すべり台」。落差約8mで、北海道でも最大の規模です。林浴を楽しめる空間として、できるだけ今の自然の森を壊さずに、森の中に散策路やベンチ、トイレなどを。滝野公園は、冬の間はそりやスキーなどを楽しめます。こちらは3月31日です。4月20日には、春期開園となります。春からは、花や森といった自然を楽しんだり、炊事広場でバーベキュー、溪流で釣りを楽しんだり、様々な楽しみ方ができます。また、平成14年7月に全面オープンした「こどもの谷」の遊具は子どもたちに大人気です。滝野公園は、夏と冬、全く違った顔を見せる珍しい公園です。これからの冬に遊びにきてください。



冬の間は「滝野スノーワールド」として開園します。スキーやそりなど、冬の遊びを満喫できます。

整備していきます。景色も楽しんでもらいたいのので、道路やベンチには、景観を壊さないようなデザインや色、素材を使用しよう心がけています。公園の中に、質感や色の全く



## 最・前・線

開発局と地域を結ぶ  
主役はまさに“ひと”  
地域の人々と一緒に考え、行動する  
その最前線に立つ姿を紹介します

※国営公園：生活環境の向上を目的として国が設置管理を行っている公園。北海道では北海道開発局が整備を担当しています。

国営滝野すずらん丘陵公園は、札幌市南区にある道内唯一の国営公園です。昭和58年の開園以来、自然に親しめる場として四季を通じて多くの方が訪れています。私は現在、今後オープンする予定の「森林体験ゾーン」で道路の設計や実際の工事に立ち会う仕事を担当しています。すでに開園している公園内での工事ですので、騒音や粉じんが遊んでいるお客さんの邪魔にならないよう、工事を行っている周りに柵を立てるなどの工夫をしています。

この「森林体験ゾーン」は、誰でも気軽に森

すよね。景観を考えることは、楽しくもあり、自分自身の勉強にもなります。

ここで働いていると、利用するお客さんの顔を直接見ることが出来ます。楽しそうに遊ぶ子供たちの顔を見ると、やりがいを感じます。

滝野公園は、冬の間はそりやスキーなどを楽しめます。こちらは3月31日です。4月20日には、春期開園となります。春からは、花や森といった自然を楽しんだり、炊事広場でバーベキュー、溪流で釣りを楽しんだり、様々な楽しみ方ができます。また、平成14年7月に全面オープンした「こどもの谷」の遊具は子どもたちに大人気です。滝野公園は、夏と冬、全く違った顔を見せる珍しい公園です。これからの冬に遊びにきてください。





# 日本の清流で ラフティング

長い冬が終わりに近づき、雪解  
け間近となりました。雪解け水が  
流れる初春には、ウオータースポ  
ーツの季節が始まります。  
ラフティングは、5〜8人乗り  
のボートで川を下るスポーツで、  
初心者でもスリル満点の急流下り  
を楽しむことができます。清流日  
本の尻別川は、このラフティン  
グをはじめ、カヌーなどのウオー  
タースポーツが盛んです。



# コンテナを使った苫小牧港での輸出入

世界へはこんなものを  
運んでいます。



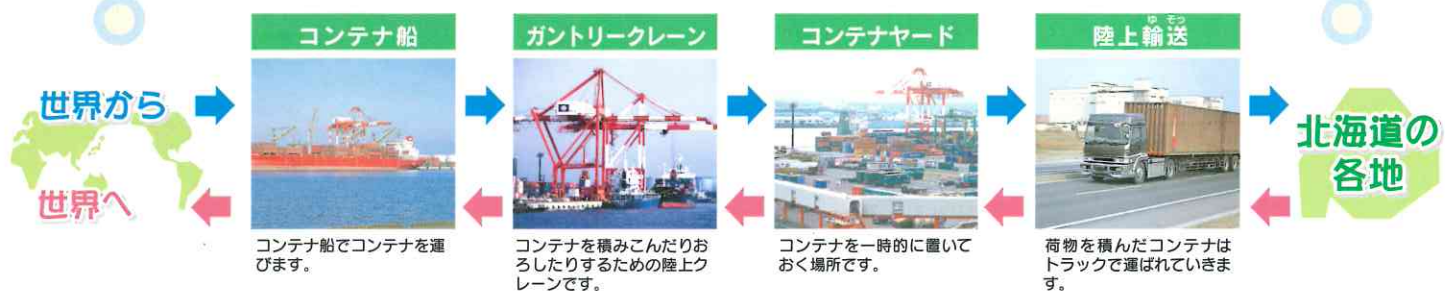
年間**43**万トン

北海道に入ってくるものには  
こんなものがあります。



年間**118**万トン

苫小牧港だけで、北海道の港に入ってくる貨物の4割を扱っているの。苫小牧港の多目的国際ターミナルを整備すると、北海道のみんなの生活が便利になるのね。



外国のコンテナは  
どんなところから  
来るの？

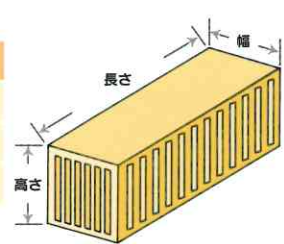


コンテナってなに？

コンテナとは金属でできた箱で、国際的に規格化されている輸送用の容器のことです。様々な品物に対応するため、品物にあった専用のコンテナも用意されています。  
品物がバラバラではなく、まとまって中に入っているため、コンテナは船からの積みおろしが簡単です。

コンテナの国際規格

	40フィート コンテナ	20フィート コンテナ
長さ	40フィート (12.2m)	20フィート (6.1m)
高さ	8.6フィート (2.6m)	8.6フィート (2.6m)
幅	8フィート (2.4m)	8フィート (2.4m)



平成14年には、20フィートコンテナに換算して16万5267個を積みおろして、苫小牧での新記録を作ったんだ！



コンテナには何が入っているの？

コンテナはありとあらゆるものが運べます。食料や衣料、電化製品、自動車、機械、鋼材をはじめ、ボート、ブルドーザー、電車、ときには動物まで、私たちの暮らしそのものを運んでいます。

「海とみなとの相談窓口」  
海とみなとに関すること、何でもお気軽にご相談ください！

海とみなとの相談窓口  
全国共通フリーダイヤル  
0120-497-370

事業紹介

# 世界と北海道をつなぐ苫小牧港

苫小牧港東港区多目的国際ターミナル事業



建設中の苫小牧港東港区多目的国際ターミナル全景

今年で開港40周年を迎える苫小牧港は、西港区と東港区からなる北海道最大の港であり、国内貨物については我が国最大の取扱量を誇ります。北海道の代表的な産業である農業や製紙業では、この苫小牧港を利用して、原材料となる飼料原料や木材チップなどを海外から大量に輸入し、野菜、畜産品および新聞紙用紙などの生産品を全国各地へ移出しています。また、様々な生活雑貨、発電に必要な石炭、自動車などを北海道へ輸送する拠点にもなっており、苫小牧港は北海道の産業や私たちの暮らしに非常に重要な役割を果たしています。

しかし、近年の貨物量の増加に伴い、苫小牧港では様々な問題が発生しています。例えば、住宅の建設資材等となる製材が北米から輸入されていますが、岸壁の水深が浅いため、現在就航している大型船は貨物を満載した状態で公共岸壁を利用することはできない状態となっています。また、海外との輸送の中心となっている外資コンテナの増加が著しく、苫小牧港西港区では既に計画容量の約1.5倍の取扱量となっています。このため、コンテナ船が入港待ちを強いられるたり、コンテナを保管する用地（コンテナヤード）の不足により、他の用地に一時コンテナを運搬・保管する等の余分な費用がかかったりしています。

これらの問題を解決するため、北海道開発局では、苫小牧港東港区中央水路地区において、製材や外資コンテナを取り扱う多目的国際ターミナルの建設を平成13年に着手しました。現在は、コンテナ

の積み降ろしをするガントリークレーンの基礎工事と岸壁本体の工事を行うとともに、大型の船舶が入港できるように海底を水深14mまで浚渫（しゅんせつ）して埋立に再利用する予定です。

この多目的国際ターミナルは平成16年度に水深10m、平成18年度には水深14mで利用を開始する予定で、5万トン級の大型船舶が入港できるようになり、かつ増大する外資コンテナに対応することが可能となります。これにより、物流コストの削減が図られるとともに、西港区の混雑緩和や利便性の向上にもつながるため、周辺地域はもとより、北海道の経済、産業及び生活にも大きなメリットが生まれることとなります。



多目的国際ターミナル完成イメージ  
製材や外資コンテナを取り扱う岸壁と荷役を行うスペースを確保します

※浚渫：水底の土砂を掘ること





# 滑ったり転んだりがアドナイ流

チーズ工房 アドナイ経営  
堤田 克彦

Tsutomida Katsuhiko



イタリアではお菓子と料理の両方に多用されるリコッタチーズを使った人気のタルト



熟成室でゆっくり育てられているチーズたち。いろいろな菌の相互作用でおいしくなっています。

## Profile プロフィール

堤田 克彦(つつみだ・かつひこ)

1958年、熊本県生まれ。酪農学園大学酪農学部酪農学科卒業後、大手百貨店入社。1984年、本州の乳製品製造会社に転職し、チーズ作りに出会う。1991年、興部町に家族で移住し、酪農製品関連の会社に勤務。1996年に独立し、「チーズ工房アドナイ」を設立。主にイタリア産をモデルにした約10種類のチーズを製造販売。札幌をはじめ、首都圏のレストランからの注文も多い。工房のパートナーでもある妻の記子さんと10人のお子さん、そして1匹の犬と暮らしている。

世の中の事に重ね合わせるの、あまり似合わないのですが、人の個性も同じことのような気がします。このことが私がチーズに多様性のすばらしさを感じる所以であり、まだまだ先は長いな、とため息をつく毎日です。

滑ったり、転んだりした事が個性、オリジナリティーに通じると思います。その個性、オリジナリティーは先の異国の友人たちにも受け入れられます。

たとえば季節的に乳の量が減って、いつもの型に詰めると半分なので、明日の分とあわせて、1個にするべく、一晚焼き火の横で保温したチーズ。めでたく2日分で1個できたけど、半年後に切ってみると、断面に横一文字の黒い線。焼き火のさすが、2回に分けたチーズづくりの証拠になりました。そんなチーズもあります。(現在ではわざとすずをはさんで一日で仕上げます。フランスの伝統的な山岳チーズの様式になりました。)

そんなわけで、作り手の試行錯誤や苦労、偶然の積み重ねがチーズの個性になるようです。わが工房のチーズの中にも製造中、お湯の中に落とし、そのままほかのチーズと一緒に熟成させたところ、特徴的な風味になったものがあります。勿論、そのまま毎回、お湯に落とすような事はしません。大きなヒントになり、工房の人気のチーズになっています。



ゆっくりと発酵が進んでいるゴルゴンゾーラ(イタリアンタイプのブルーチーズ)を動かしながら「こいつはリズムが(他のチーズとは)違う」と堤田さん

チーズのことをイタリア語でフロマージュ、フランスではフロマーージュと言います。この語源は型のことです。英語のフォームにも通ずると思っっています。先ほど同じ牛乳から作っても置く場所によってその性格は大きく変わると言いましたが、型をかえるとそれだけでまた違うチーズになります。

ここが一つの村、町に一品と言われるほど、チーズの種類が多い理由です。なにも大げさな理論でチーズの種類が分岐していくのではなく、作り手の都合でも新しいチーズが生まれます。

ナチュラルチーズの魅力は、なんといってもその種類の豊かさにあります。よくひとつの村、ひとつの町にひとつのチーズがあると言われます。ひとことでチーズと言いますが、本当に色、形、におい、食感、風味はまったく異なります。

実際、10個作って並べていると真ん中と端のチーズでは、出来上がりの柔らかさや、熟成の早さが違ったりします。また、季節によっても少しずつ違うものができます。始めた頃は、何とか同じ様に仕上げようと努力もしましたが、最近は夏は作らないで、秋口から春先に作るチーズとか、相手に合わせようとする知恵がでてきました。

少しずつではありますが、理解できてきたのは、人の都合であまりチーズをいじらない事。この人の都合というのは、たとえばよく販売目的でチーズの大きさを小さめにします。お手本にしたオリジナルのチーズの大きさをいじったりします。そんなチーズをフランスの友人はまったく違うもの、イタリア人においては、ないよりましと言いました。

チーズのことをイタリア語でフロマージュ、フランスではフロマーージュと言います。この語源は型のことです。英語のフォームにも通ずると思っっています。先ほど同じ牛乳から作っても置く場所によってその性格は大きく変わると言いましたが、型をかえるとそれだけでまた違うチーズになります。

ここが一つの村、町に一品と言われるほど、チーズの種類が多い理由です。なにも大げさな理論でチーズの種類が分岐していくのではなく、作り手の都合でも新しいチーズが生まれます。



ひもでぶらさけて熟成させるユニークな形のチーズ、カッチョカハロ・アドナイ



# 本府・札幌と港・小樽を結ぶ幹線道路

～札幌国道～

江戸時代、石狩の原野に切り開かれた一本の道。これが札幌と小樽を結ぶ国道5号「札幌国道」一の前身です。海と山に挟まれた険しい地形を通るこの道は、何度も工事を繰り返して主要幹線道路となりました。

昭和9年に札幌国道の開通を記念して建立された札幌国道開通記念碑は、困難の多かった道路建設の歴史を、現在に語り伝えています。



馬車による路面敷碎石の運搬状況 (明治9年)「札幌国道写真帳」より



昭和4年8月 大日本帝国陸地測量部



「札幌国道開通記念碑」：以前は張碓トンネルの出口付近にありましたが、平成12年の拡幅工事にともなって新しく設けられた榎里チェーン装着場に移設されました

**札幌国道の前身「札幌越新道」**  
今から約140年前。まだ蝦夷地と呼ばれていた北海道に、草を刈り分けただけの粗末な道がつけられました。銭函から豊平川を渡り千歳に至るこの道は、「函館奉行が造らせたもので「札幌越新道」と呼ばれ、現在の札幌国道の原型となりました。

**札幌と銭函、小樽間に道路が開通**

明治2年、札幌に開拓使が置かれると、札幌越新道のうち、銭函と札幌間は馬車を通れるように改修され、同6年には銭函と小樽を結ぶ海岸道路が開通しました。しかし、断崖絶壁に作られたこの海岸道路は壊れやすく、車の通行も不可能でした。そこで明治10年、開拓使はアメリカ人のクロフォードを雇い、道路改修を命じました。この海岸道路は「将来鉄道の線路とすること」を前提に作られ、明治12年に完成しました。「新撰北海道史」では「従来殆ど神鬼の工を得るにあらざれば不可能とされていたこの難路が、斯も易々と立派に成功したものである」とその偉業を讃えています。

明治13年には、予定通りこの道路上に線路を敷き、北海道で初めて、日本でも3番目の鉄道(手宮—札幌間)が運行を開始しました。しかし、それにより馬車道としては大変狭く、不便で危険なものになってしまいました。多数の踏切を設けたものの、場所によ



明治12年当時の海岸道路\*



昭和30年に舗装が完成



昭和9年完成工事・朝里付近の切割



小樽方向から見た国道5号(左)と札幌自動車道(右)

※北海道大学付属図書館蔵

**快適な道路作りを目指して**

戦後、経済復興と駐留軍の要請により始まった舗装工事では、山の切り下げや沢の盛土によって勾配が緩やかになり、急カーブも修正されました。それまで沢をくねくねと渡り断崖を迂回していた道路は、昭和30年の完成により、四季折々の風景と眼下に広がる青々とした日本海を車窓から満喫できる快適な道路へと生まれ変わりました。さらに、平成13年には、慢性的な交通渋滞を緩和するために全線四車線化が実現。その昔、断崖絶壁に作られた細い一本道は、これら幾多にも及ぶ改良工事を経て、地域産業や経済の発展を支える大動脈となったのです。

では列車から退避する余地がなくなり、毎年列車事故による多数の犠牲者が出ていました。昭和に入ると、札幌と小樽は急激な発展を遂げました。そのため北海道庁は、時勢の要求に応じることができなくなった札幌間の道路の根本的な改良工事を昭和6年に開始。不況による失業者救済も兼ねていたことから、路面に使用した碎石は人力によって製造されました。昭和9年に改良工事は完了し、北海道で第一号の鉄道省営バスが、札幌・苗穂—小樽—手宮間の運行を開始しました。



# 平成15年度社会実験の公募について

## 平成15年度の道路に関する新しい施策についての 社会実験実施地域を公募します。

社会実験とは、社会的に大きな影響を与える可能性のある新しい施策の導入に先立ち、場所と期間を限定して、地域の方々に実際に体験していただくことにより施策を評価し、本格的に導入するかどうかを判断するものです。

申請受付期間

**平成15年4月1日(火)  
～4月25日(金)**

詳細については以下のホームページをご覧ください。

(公募要領、申請書は以下のホームページよりダウンロードできます。)

<http://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.htm>

お問い合わせ先

北海道開発局 建設部 道路計画課

電話 011-709-2311(内線5365)

E-mail [shakai-hokkaido@hkd.mlit.go.jp](mailto:shakai-hokkaido@hkd.mlit.go.jp)



平成14年度は、留萌市住之江町において実験が行われ、夏は「花」、冬は「除雪」をテーマに、地域コミュニティの将来の役割や、道づくり・地域づくりのルール化について検証しました。

## えでたぬき

先日、北海道開発局のホームページで「道路開通予定」の情報が更新されました。その中に、私が以前関わっていた道路が加わっていました。

私は、北海道開発局に入局し四年間、事業用地の取得の仕事をしていました。その当時の私は「安全に通行できる道路」の早期完成を願って無我夢中で仕事に取り組んでいました。

その後工事完成を見ぬまま通勤し、そのことをすっかり忘れていた私にとって、非常にうれしいことであり、また、その当時のことを思い出して非常に懐かしい気持ちになりました。

新たに開通する道路が地域の方々に喜ばれる道路になることを祈りつつ、私自身も初心を忘れず、頑張りたいと思っています。

(T)

道は以前に廻ったことがあるのですが、毎年新しく作られているようなので、これから記事も続けて行ってほしいです。

(江別市 E・Iさん)

道は以前に廻ったことがあるのですが、毎年新しく作られているようなので、これから記事も続けて行ってほしいです。

(名寄市 Y・Kさん)

はじめて見ました。いくつかの地域にふれていて、おもしろかったです。私の知らない所で、様々な事をされている人たちがいて、北海道があると思いました。

「魚がのぼりやすい川づくり」の頁は、釣りが好きの私は大変興味を持ってました。各地方の川の改修も知らせてほしい。

(静内町 T・Aさん)

## ひろば

は31号アンケートがきより...

「かいほつグラフ」が

インターネットでもご覧になれます。

北海道開発局のホームページでは、「ほっかいどうかいほつグラフ」の誌面の一部を掲載しております。掲載している記事は、特集、しごと最前線、事業紹介(17号以降)です。バックナンバーも見ることができますので、ぜひアクセスしてみてください。



アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp>

## ピックアップ

## 高規格幹線道路3区間 平成15年3月開通

平成15年3月、北海道内の3区間で高規格幹線道路が開通しました。

北海道は面積が広大で都市が散在しているという特徴があり、人流・物流の9割を自動車に依存しています。主力産業である農水産業や観光産業でも、農水産品の全国への出荷の際や、ドライブ周遊観光の際に自動車で長距離を移動する必要があります。

このような中、主要な都市・港湾・空港を、気象条件の厳しい冬期においても、より迅速に、安全かつ確実に移動することができる高規格幹線道路の整備は、北海道の活性化にとって必要不可欠となっています。

このたび開通したのは、帯広・広尾自動車道 [帯広JCT～帯広川西IC 17km]、函館・江差自動車道 [函館IC～上磯IC 8km]、一般国道40号名寄バイパス [名寄市字砺波～名寄市字智恵文 7km] の3区間です。この開通により、道内で計画されている一般国道の自動車専用道路(5路線)の全路線の一部区間が開通することになります。

北海道開発局では、今後も早期の高速交通ネットワーク形成に向けて、重点的かつ効果的に整備を進めていきます。



帯広・広尾自動車道 芽室帯広IC～帯広川西IC

北海道の高規格幹線道路



帯広・広尾自動車道 帯広JCT～帯広川西IC 開通式

## 開発カレンダー 2003年 4月～6月

( )内は開催地

- 4月20日 国営滝野すずらん丘陵公園 春の開園
- 4月26日～27日 第2回 北海道・川の日ワークショップ (帯広市とかちプラザ)
- 6月上旬 平成15年度第1回環境セミナー (札幌第一合同庁舎)
- 6月14日 平成15年度十勝川水防公開演習 (中川郡豊頃町十勝川茂岩橋下流茂岩市街側河川敷)



国営滝野すずらん公園 マスコットキャラクター「きのたん」



「北海道開発グラフ」はエコマーク認定の再生紙を使用しています。